

市町村名 宮古島市

平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (8, 伝統工芸産業振興事業), 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第3章-1-(5)-イ), 担当部課名 (観光商工局商工物産交流課), 事業実施(予定)年度 (平成24~28年度), 沖縄振興基本方針該当箇所 (-3-(2))

事業内容 本市の伝統工芸産業の振興に向けて、国の重要無形文化財に指定されている「宮古上布」の生産・保存・伝承を支援するため、織物事業協同組合に対し、補助金を交付する。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )

Table with 7 columns: 24年度, 25年度, 26年度, 27年度, 28年度. Rows include: 予算額・執行額 (単位:千円), 予算の状況 (a-d), A.計(b+d), B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%) (B/A), 予算の状況の説明 (不用額もなく、当初計画していた事業内容は概ね実施した。)

Table with 5 columns: H24活動目標(指標), 24年度, 26年度, 27年度, 28年度. Rows include: 伝統工芸産業(宮古上布)の振興に向けた支援 新商品の開発, 伝統工芸産業(宮古上布)の振興に向けた支援 国内外への販路拡大

達成状況説明 新ブランド「かぎつむ」作成。県外展示会への誘客のため、冊子・チラシ・案内ハガキの作成、大使館、出版社、染織関係へ送付、都内わしたショップ等でチラシの配布、新宿駅等へポスターの掲示、SNS、朝日新聞等への掲載。販路拡大を目的に、都内において各関連団体と開催した展示会で、約150点の作品展示、素材展示、講演会・ワークショップの開催、アンケートの依頼。

Table with 7 columns: 基準値(年度), 24年度, 25年度, 26年度, 目標値(28年度). Rows include: H24成果目標(指標), 伝統工芸産業(宮古上布)の振興に向けた支援 新商品の開発, 伝統工芸産業(宮古上布)の振興に向けた支援 国内外への販路拡大, 【参考指標】新商品の帯・小物の販売額 (芋麻糸の帯、上布素材ののれん、スカーフ等)

進捗状況説明 平成24年度は、当該事業実施により、伝統工芸品「宮古上布」の振興が図られた。宮古上布の着物、着尺、帯、小物を展示し宮古上布の新たな魅力をPRできたともに、新ブランドを展示し、宮古上布の過去から未来への形を示せた。新ブランド「かぎつむ」のコンセプトについて、宮古上布は着物業界において日本三大上布の地位をもっているが、麻織物は普段着洒落着であり、礼装には適さないと言われてるので「礼装にも使える上布」を最終目標として開発した。また、近年芋麻糸生産者の高齢化により着物に適さない太い糸の割合が増加しており、この糸を利用した新商品として、帯、シャツ、スカーフ等の小物の開発を行った。帯、スカーフ等の小物は宮古織物事業協同組合で行い、シャツについてはNPO法人「織りの海道実行委員会」へデザイン開発を委託した。平成24年度に開発した商品については、藍を中心とした草木染の製品が多く、洗濯や日照による退色が問題点(耐久性)として上がっており解決策が見つかっていないが、草木染の特徴でもあるため「製品の特長、風合い」として取り扱い説明に記載するなどの対策を検討している。NPO法人「織りの海道実行委員会」へデザイン開発を委託したシャツについては、一般販売時にデザイン使用料を支払う必要があるが金額等の折り合いがつかない。宮古織物事業協同組合が開発した商品は、宮古織物事業協同組合が市伝統工芸品センターにて展示販売している。

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>平成24年度に開発した新商品(シャツ)について、デザイン・加工技術等の使用について委託業者との販売時のデザイン使用料の調整が必要である。開発した商品については、藍を中心とした草木染の製品が多く、洗濯や日照による退色が問題点(耐久性)として上がっており解決策が見つかっていない。</p> <p>平成26年度の販売実績が5万円であったのは、一般的な麻織物の商品に比べての割高感が影響していると考えられる。</p>	<p>デザイン・加工技術等の使用料について、委託業者と手数料等の調整を行う。</p> <p>退色が問題点(耐久性)として上がっており解決策が見つかっていないが、草木染の特徴でもあるため「製品の特長、風合い」として取り扱い説明に記載するなどの対策を検討している。同時に退色の問題を改善するため染色の材料・技法の検討を行う。</p> <p>天然素材を使用した手仕事の製品であり付加価値の高い商品であることをPRする。</p>

**今後の取り組み方針**

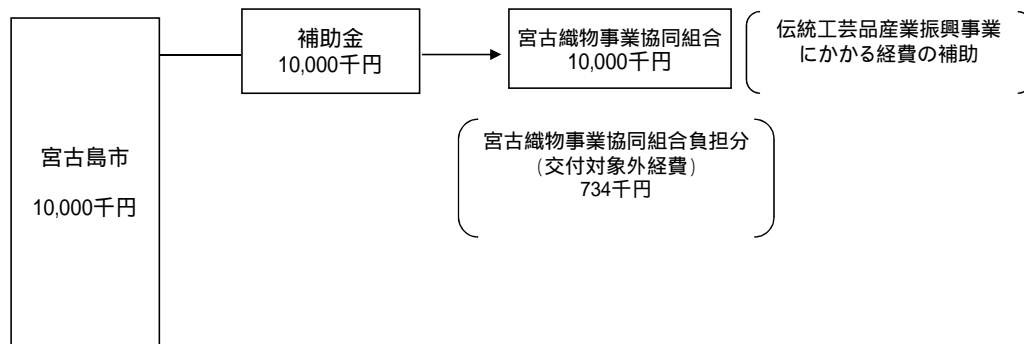
新ブランド「かぎつむ」は、従来の宮古上布の材料、技術を応用し、反物・帯などの高級品から普段使いの品まで幅広い商品展開を行っていく。特に、太い糸を利用した商品開発を中心に行う。退色問題の解決にむけて、平成27年9月に那覇から講師派遣してもらい染色の研修会を行う。

苧麻糸の帯(18万～35万円)、上布素材ののれん(3万～4万円)、スカーフ(1万8千円～)など織物事業協同組合員で開発した商品については、各種展示会に展示して、受注製造販売を実施する。「織の海道実行委員会」が開発したシャツについては、試作品どおりの商品を販売する場合のデザイン使用料の支払い割合を「織の海道実行委員会」と交渉していく。

スカーフ、のれんなどの一部商品については、現在「銀座わしたショップ宝蔵」等にて展示販売中であるが、上布と同じ材料、技術を用いた製品であることをPRするとともに、商品点数を増やしていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,734	10,000	8,000	2,000	734



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予定した事業は全て実施し、予算規模は適正であった。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	事業受託者も一定の費用を負担しており、費用負担関係も適正であった。
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費用・用途については、完了検査にて確認、適正であった。